



障害児を育てる親同士の自主的な訓練会

公益社団法人日本発達障害連盟 常務理事 **志賀利一**

日本が高度経済成長を経て豊かになり、当時の田中角栄総理大臣が「福祉元年」を宣言したのは1973年です。皮肉なもので、同じ年に、石油危機が叫ばれ、店頭からトイレットペーパーがなくなりました。

ちょうどその頃、京浜工業地帯で、障害のある乳幼児の親が集まり、ボランティアといっしょに自主的な療育・訓練を行う場ができ始めました。児童福祉法による通園施設がまだまだ稀な時代です。

川崎市の大師地区で、近隣の家族と市の保健師が始めた訓練会モデルが瞬く間に広がったと、私は先輩から教わりました。資料はありません。京浜工業地帯以外でも同様な取り組みはあったかもしれません。

この活動の黎明期には、定期的に活動する場所を探すのに苦労したそうです。今では考えられませんが、大企業の独身寮の食堂を活動の場としていた地域もあったそうです。確かに、昼間は誰もいないし、乳幼児の療育・訓練には最適な広さです。横浜市は、今でもこの活動を地域自主訓練会と位置づけ、市の障害福祉施策のメニューに加えています。また、自主訓練会の運営に携わった多くの人たちが、社会福祉法人やNPO法人を誕生させています。

1970年代、京浜工業地帯には、地方から就職先を求めて、あるいは大学等で学んだことをきっかけに、この地に定着した人の家庭が、代々この地で生まれた人の家庭よりはるかに多かったはずで、自主訓練会は、訓練的な要素の濃い療育だけでなく、季節の楽し

みのイベント、親子揃ってのキャンプや旅行なども積極的に行っていました。近隣に親族のいない家族にとって、このような活動に参加することは、お互いの絆を深めたに違いありません。もちろん、子どもの成長にとっても大切な場であったと思います。

それから50年が経過しました。この間に、発達障害者支援法が誕生しました。子どもの数はかなり減りました。それでも、母子保健の乳幼児健診後、保健所等でフォローする子の数は増えています。児童発達支援センター、児童発達支援事業、そして保育園・幼稚園等への巡回相談といった国の制度による公助の仕組みも大いに充実しました。そして、発達障害を専門とする児童精神科や小児科を受診する乳幼児の割合は、その年代の子どものうちの2割を超えているようです。当然、乳幼児期に個別な支援が必要だと判断された子のうち、障害者として一生を送る人の割合は多くないと想像できます。

今、自主訓練会で親同士の連帯を求める家族が急激に少なくなっています。連帯を求める時代ではなくなったのでしょうか。障害のある子の子育てと両親共にフルタイムで働くことが両立できる時代です。親子で訓練会に出かける時間がないのかもしれませんが。古い世代の私は、重要な場所だと思うのですが、ニーズに合わせた、新しい機能を模索しなくてはならない時代になったのかもしれません。

\\Topic\\

やまだこどもクリニックをたずねて

今回は東京都内の東村山市で「やまだこどもクリニック」を運営している医療法人社団佳正会様をご紹介します。2013年1月に、同市内の秋津、2023年11月に久米川にクリニックを設立し、現在は100名もの職員の方々とクリニックを運営しています。今回ご紹介する「やまだこどもクリニック久米川」は、元銀行だったビルの1、2、4階で事業を展開しています。1階では外来、健診、理学療法、病児・病後児保育、2階では作業療法、言語療法、心理検査、カウンセリング、4階では精神科デイケアを行っています。そのほか、秋津のクリニックには「保育所訪問支援やまだこどもサポート室」も併設しています。

クリニックには5つの診察室があり、山田和孝理事長の他に常勤・非常勤の勤務医が日々診察を行っているそうです。この日は当連盟の理事・古荘純一先生が外来の診察日でしたので、診察に同席させていただきました。

小学校1年生のお子さんで、この日は3回目の外来受診とのことでした。現在の様子などを聞き取りし、このお子さんには『子どものQOL尺度』(古荘純一ほか編著、診断と治療社)を活用し、「こどもアンケート」に記入してもらいました。その結果をふまえて臨床で研究された傾向などから、お子さんの行動の傾向や今後起こりそうなことを細かく保護者へ伝え、その時の望ましい対応方法の指導などをしていました。約40分間、とても丁寧な診察で驚きました。その後にクリニックの方にお話を伺ったところ、受診された状況により診察時間はさまざまということでしたが、ご家族が安心して通院できるクリニックだと感じました。

続いて療育室を案内いただきました。理学療法室では、理学療法士の方が制作している装具を見せていただきました。Sole Analyzerという足型を読み取る機械が導入されており、足圧分布や足裏の異形、変形などのデータが計測でき、それに基づいて装具やインソールをさまざまな視点を入れて制作するそうです。ほかにも、見



足型を取る機械



インソールや装具



理学療法室



2階個別療法室

たことがない装具を見せていただきましたが、なんと理学療法士の先生方が考案したものだそうです。

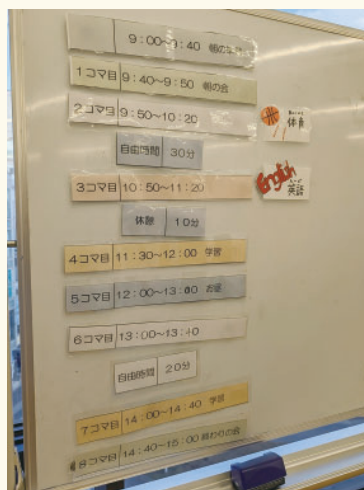
2階には15もの個別の療育室があり、40分1クールで個別療法をしていました。さまざまな機材が部屋にあり、個別療法を受けていたお子さんたちの表情がとても楽しそうなのが印象的でした。個別療法では就学までの成果目標を立ててしっかり支援をされていると説明いただきましたが、それは専門職の方々の準備されている様子や療法の様子からもうかがい取ることができました。またクリニックで療法を受けているお子さんには、秋津のクリニックで行っている保育所等訪問支援を使って通所先での対応も可能とのこと。希望があれば、個別療法だけでなく、集団の中での様子から通所先の支援者の方とも連携をしっかりと取られて支援をされているとのことでした。ここでもまた、ご家族の困りごとに寄り添った素晴らしい取り組みをされているという印象でした。

4階には精神科デイケア「ひみつきち」があり、不登校や学校への行き渋りがあるお子さんの支援を行っています。電車で遠くから通っているお子さんもいらっしゃるそうです。学校と連携をとり、「ひみつきち」での活動が学校への出席になるように交渉もされ、認められたとのことでした。「ひみつきち」のお子さんたちも楽しそうに活動されていました。

民間医療機関でどこからの補助や助成も受けずに、ここまで大きくさまざまな対応をされているクリニックには初めて出会いました。山田理事長の「早期発見・早期療育」の理念が実現されており、見学後に職員の方と懇談さ



4階ひみつきちのランチルーム



ひみつきちのスケジュール

せていただきましたが、みなさんさまざまなことに大変意欲的で「これはできない」という言葉が出てくることはなく、何に対しても前向きにお話をされていました。職員のみさんと通院・通所されているみなさんの笑顔が印象的な施設でした。

(公益社団法人日本発達障害連盟 事務局長 芳野友紀)

クリニックより

発達障害に関連する特性を持ったお子様から大人の数は増加しており、年々顕在化してきているように思います。約10数年前から東村山市で主に就学前のお子様を対象とした小児科クリニックを開設し、PT、OT、ST、心理士等の専門職で療育を行ってきました。山田理事長の「早期発見・早期療育」の理念の下で診療と療育を重ね、結果として子どもたちの笑顔に結びついてきました。一方で当院受診を希望する方も増加の一途をたどり、診察まで4か月待ちの状態が続きました。

山田理事長は、療育が必要である大切な時期を逸してしまう事態を重く受け止め、私財を投じ、2院目の療育クリニックである「やまだこどもクリニック久米川」を設立する決断を致しました。しかし、医療法人である当院は一切の補助金は受けられず、融資には限界もあるため、施設を建設する資金の確保に時間を要しました。また世界情勢の変化として戦争や建設資材の高騰による建設費高騰や、契約した建設会社の倒産等の不運に見舞われ、開設までに時間と資金を費やしました。同時に、医師や各療育士の確保にも困難を極めました。

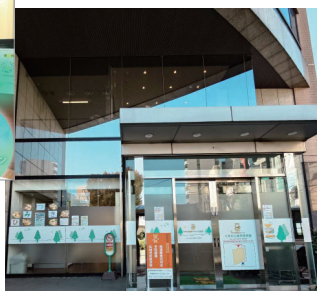
そして設立構想から約3年で、ようやく資金のめどが立ち、職員の確保もある程度可能となり、2023年11月1日に開院することができました。現在、両院合わせて、職員数約100名、PT、OT、ST、心理士等の療育、病児保育室、不登校児を対象とした民間の医療機関としては数少ない「精神科デイケア」を開設しました。

開設から1年が経過しましたが、皆様の療育のご期待に沿えるよう努力してまいります。

医療法人社団佳正会

やまだこどもクリニック・やまだこどもクリニック久米川

経営企画室 室長・リハビリテーション部 部長 大西 修



やまだこどもクリニック

久米川

〒189-0013 東京都東村山市栄町2-9-14 東晃第2ビル
電話 042-306-2960

秋津

〒189-0001 東京都東村山市秋津町5-13-3 セゾン新秋津1F
電話 042-399-2285

<ホームページ>

<https://www.kotonear.com/yamadakodomoclinic/>



第27回 アジア知的障害会議 開催のお知らせ

第27回アジア知的障害者会議の詳細が開催国台湾より少しずつ発表になってきております。日本からのツアーは現在計画中ですので、決定次第ホームページに掲載いたします。

現在、論文の募集が発表されております。研究者の方は直接現地事務局へ資料を提出いただき、本人発表ご希望の方は連盟までお問い合わせください。連盟で英訳のお手伝い等させていただきます。

大会ホームページ <https://afidtw.org/2025/include/>

大会日程 2025年10月26日～31日(※連盟企画のツアー日程は別になります)

大会会場 Howard Civil Service International House

大会スケジュール(※予定)

	10/26(Sun)	10/27(Mon)	10/28(Tue)	10/29(Wed)	10/30(Thu)	10/31(Fri)
9:00-10:00		Opening Ceremony	Keynote speech I	Keynote speech II		AFID General Assembly
10:00-10:30	Registration (9:00-17:00) Pre-conference workshop/Inclusive Communion Activity(13:30-17:00)	Tea Break	Tea Break	Tea Break	Educational Tour	Tea Break
10:30-12:00		Panel I Taiwan Report	Panel II: National Report	Panel III: National Report		Close ceremony
12:00-13:30		Lunch	Lunch	Lunch		Post-conference communion sport / PBIS for persons with IDD
13:30-15:00		Oral sessions	Oral sessions	Oral sessions		
15:00-15:30		Tea Break	Tea Break	Tea Break		
15:30-17:00		Oral sessions	Oral sessions	Oral sessions		
17:00-18:00		AFID Board Meeting I				AFID Board Meeting II
19:00-20:30		Welcome Banquet			Friendship Night	

●論文募集

提出期限：論文／ポスター発表要旨の提出は 2025年4月15日まで。発表者には、2025年6月30日までに要旨の受理または却下の通知が届きます。その後、全文を2025年8月31日までに提出となります。今回は要旨の提出についての情報のみ掲載いたします。

論文・ポスター発表要旨ガイドラインは、ホームページにてご確認ください。

●本人発表についての問い合わせ

公益社団法人日本発達障害連盟 アジア会議担当 e-mail: info@jlidd.jp

NEWS!

個別支援学級の児童制作の映像作品が、最優秀作品賞候補にノミネート！

横浜市立西が岡小学校の個別支援学級5組が制作した「もしも願いが叶うなら」が、パナソニック主催「KWN 日本コンテスト2024」で、最優秀作品賞(小学生部門)候補に選ばれました。動画は以下のページから視聴できます。ぜひご覧ください。

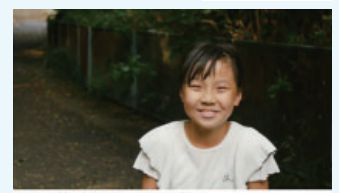
▶ https://holdings.panasonic/jp/corporate/sustainability/citizenship/kwn/jp_contest2024.html



(担任の先生より)

動画作りのきっかけは、自分達への心無い差別でした。自分達の気持ちを知ってもらいたい、友達の辛い思いをなくしたい、と考え、昨年度から活動をしていました。しかし、活動を進めていく内に、自分達以外にも辛い思いをしている人を知り、その人達の力になりたい、と考えるようになりました。自分達に何ができるか、必死に話し合いました。「知らない人に大丈夫と言われても、きっと思いは伝わらない。自分達にできることは自分達のことを伝えるだけ。」という結論となりました。自分達への差別や自分自身の特性と向き合い、自分達なりの想いを動画にしました。多くの方に見ていただき、温かい気持ちになっていただけると幸いです。

(横浜市立西が岡小学校教諭 藤田 歩)





準会員・賛助会員募集

私たちの事業活動にご賛同いただける会員(個人・法人)を募集しています

年会費(1年間4月1日から3月31日まで)／会員特典がございます

[準会員] 1口 50,000円 [賛助会員] 1口 10,000円

詳しくはホームページにて

●ご賛同いただきありがとうございます(24.11.1～25.1.28 順不同/敬称は省略させていただきます)

篠崎昌子(福)孝順会 聖家族園(株)メーティスひだまり工房 若松育子 ホープ会(福)侑愛会(福)ゆうき福祉会 虹の家 加我牧子
(福)杏和会やまびこ学園(福)くにみ会くにみ園 川嶋浩一郎 白鳥福祉館 生活介護事業所フェニックス ジョブサポートフェニックス
(特非)カモミール(株)アスタスLiveステーション上野田町 八王子平和の家 津久井やまゆり園(福)花(株)ふきのとう 旭出生産福祉園
向後俊昭 秋山千枝子 カメリアハウス 片岡智則 前本達男 瀬能聖美 飯泉弘仁

2025年度 開催セミナーのご案内

2025年度に新しく開催するセミナーとリニューアルするセミナーをご案内いたします。

★新規セミナー

発達障害のある人の児童期から成人期への成長を支える～自閉スペクトラム症の特性を活かした取り組み～

日程:2025年7月26日(土) 会場:北とぴあ 定員:100名

講師:梅永雄二氏(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)、林大輔氏(社会福祉法人大府福祉会 たくと大府 施設長)

〈セミナー内容〉

【大人】(梅永雄二氏)成人期の自閉スペクトラム症にとってソフトスキルがいかに重要であるかを、知的障害の併存している人だけでなく、知的障害のない人まで含め、これまでの体験談を交えて紹介します。そして、自閉スペクトラム症の生物学的な特徴(障害特性)ゆえに、社会生活で必須のソフトスキルを暗黙のうちに学習することを苦手としている人に対して、学習を手助するためのアイデアや環境調整によりそのソフトスキルを不要にする考え方を紹介します。

【子ども】(林大輔氏)自閉スペクトラム症の人は、幼児期から学齢期、そして青年期と成長する間に、様々な社会生活上の困難さに直面することがあります。私たちは、その都度、一人ひとりに合った方法で困難さを乗り越える手助けが必要ですし、できれば事前に困難さを弱める予防的な対応も行っていきたいものです。自信を回復しながら、特性にマッチした自立的な社会性を育む取組について、たくさんの自立課題のサンプルも含め紹介します。

★リニューアル

支援者を伸ばす実践セミナー

日程:9月予定

講師:井之上寿美氏(島田療育センターはちおうじ医師)、玉井邦夫氏(ビデオ)、西澤由佳子氏(臨床心理士、公認心理士)

〈セミナー内容〉

実践セミナーは2日間の連続セミナーで両日午前中は講義、午後は事例を使った演習を行います。

1日目は発達支援の重要性をテーマに、井上寿美氏が講義を行います。

2日目は家族支援の重要性をテーマに講義を行います。2日目の家族支援の講義は、お亡くなりになった玉井邦夫氏の動画(2020年オンラインセミナーで配信したもの)を投影します。また、西澤由佳子氏にも同テーマで講義を行います。

事例について解決していくための支援の必要性の理解、手法を学ぶセミナーとなります。



公益社団法人 日本発達障害連盟

私たちは、世界の知的障害・発達障害のある人々が、障害のない人と共に参加する共生社会の実現を目指しています。

【構成団体】

当事者と親・保護者の会

一般社団法人

全国手をつなぐ育成会連合会

【ホームページ】<http://zen-iku.jp/>

【TEL】03-5358-9274

福祉施設関係者の団体

公益財団法人

日本知的障害者福祉協会

【ホームページ】<http://www.aigo.or.jp/>

【TEL】03-3438-0466

学校教育関係者の団体

全日本特別支援教育研究連盟

【ホームページ】

<http://zentokurenhp.world.coocan.jp>

【TEL】03-3822-1606

研究者の団体

一般社団法人

日本発達障害学会

【ホームページ】<http://www.jasdd.org/>

【TEL】03-5814-8022

一般社団法人

全国手をつなぐ育成会連合会



公益財団法人

日本知的障害者福祉協会

全日本特別支援教育研究連盟

全特連



一般社団法人

日本発達障害学会

編集:公益社団法人 日本発達障害連盟 会長 小澤 温

〒114-0015 東京都北区中里1-9-10 パレドール六義園北 402

TEL: 03-5814-0391 FAX: 03-5814-0393 URL: <http://www.jlidd.jp/>

発行:障害者団体定期刊行物協会(SSKP)

〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷 102

※無断転載・複製を禁じます。 2025年1月17日発行 定価100円